

2016年(平成28年) 4月 13日(水)

海外展開を加速

ミコー
グループ
イコー

新中計 リスク管理強化も

イコーグループは1月から始動した新5カ年中期経営計画に従って、事業構造改革を本格化していく。海外展開の加速と付加価値

分野への参入を2本柱とし、5カ年で高収益の事業体質を構築する計画。今期から事業部を細分化し効率性を高めたほか、昨年、中国に合弁会社を

設立したのに続き、成形品を取り扱う化学品商社に資本参加するなど地道な進めを進めており、シナジの創出を急ぐ。一方で企業安定性やコンプライ

アンスの強化にも取り組む。盤石な経営体制を目指していく。

5カ年で海外子会社を含むグループ売上高を15年度実績276億円から20年度335億円にまで引き上げる計画。海外現地法人の売上高比率を現在の5%から13%に引き上げる。単体では事業構造の改革を進め、従来の基礎化

学品から付加価値の高い事業分野にシフトしていく。すでに昨年、7月に中国廈門に塗料用樹脂販売の合弁会社を設立し、11月には樹脂成形品を手掛ける化学品商社・日本ユニポリマーに資本参加し関連会社とした。それぞれで川中・川下商材を手掛ける考え。

こうして改革を進めるなか、15年12月期決算は

減収減益になったものの売上総利益は増加しており、成果が表れ始めた格好となった。今後さらに川下展開を進め、さらにライフサイエンスやエレクトロニクスといった成長分野を積極開拓することで収益基盤の構築を図る。そのため今期から営業2部を電子材料部と塗料・インキ原料部の2事業に細分化しており、き

め細かい対応で事業の効率化につなげる。合わせて社内体制の強化にも取り組む。昨年、資本金を3億円に増資し自己資本比率を約20%とした。20年には30%まで引き上げること企業の実績を高める方針。また今年に入り、新たにコンプライアンス室を設置した。リスク回避と内部統制の強化を図っていく。